

令和4年度東京学芸大学現職教員研修推進本部報告書

東京学芸大学における現職教員研修支援の概要

新たな教師の学びの姿を実現するための取組

令和5年3月

東京学芸大学現職教員研修推進本部

目次

まえがき	2
1. 東京学芸大学現職教員研修推進本部について.....	4
2. 本学が提供する現職教員研修の概要	6
(1) 本学が提供する「ゼミ型研修」	6
(2) 本学が実施する一般研修	16
(3) 各教育委員会等からの依頼に基づく研修.....	21
(4) 本学が作成した動画コンテンツ	21
3. 現職教員研修に関わるシンポジウム	25
4. その他の活動.....	26
あとがき	27

まえがき

東京学芸大学現職教員研修推進本部長 狩野 賢司

現職教員の研修の一環となっていた教員免許更新制が発展的解消を遂げ、教員個人による自身の強みを伸ばす不断の研修へと移行することになりました。東京学芸大学はこれまでも多様な現職教員研修のプログラムを提供するための組織として現職教員研修推進機構を位置付けていましたが、このような状況の変化に応じた、より機動的な組織として令和4（2022）年度より現職教員研修推進本部を設置しました。

それまで本学における教員研修のプログラムは研修を企画・実施しているそれぞれのプロジェクトやセンターごとに提供されており、本学全体でどのような研修が行われているのか探しにくいなどの利便性に欠けていることが想定されたため、現職教員研修推進本部では本学が提供する教員研修を一括した「東京学芸大学現職教員研修 Web サイト」を令和4年4月に公開しました (<https://www.u-gakugei.ac.jp/training/>)。この Web サイトでは本学が提供する研修の一覧を見ることができただけでなく、研修への申込みも可能にするなど、教員の皆様が利用しやすい環境となるように心がけております。また、本学では令和4年4月に先端教育人材育成推進機構が発足し、同機構の中に「教育者研修プラットフォーム開発ユニット」を立ち上げ、現職教員を含む教育関係者全体の学びを支援するための新たなプラットフォームの開発を進めています。令和6（2024）年度の本格実施を目指し、来年度は一部の教育委員会においてプロトタイプングを予定しております。受講者の学びの評価手法を検討し、デジタルバッジにより受講証明や資質・能力を大学が認証するための研究も進めていきます。プラットフォームが本格実施する令和6年度からは、本報告書で紹介する研修はもとより、大学全体の研修プログラムをプラットフォーム上で展開し、受講者の利便性向上を図り、主体的な学びへの貢献ができるよう鋭意検討を進めていきます。

さて、現職教員研修推進本部では本年度から新たな教員研修としてゼミ型研修を開発しました。従来の教員研修とは異なり、ゼミ型研修では少人数制として、講師と受講生との間で双方向の密接なやり取りができるようにし、さらにインターバルにおいて複数回にわたって研修が行われる、大学におけるゼミのような研修を目指しました。インターバルの間に受講生は課題について調べ、前回の議論の内容を熟考して次の回に臨み、

議論や学びを深めていきます。また、オンラインを用いたりリアルタイム型の研修スタイルを多く導入し、遠方からも参加しやすいようにしました。今年度は試行として10件のゼミ型研修を実施しました。研修を担当いただいた講師の方々の報告によると、従来の単発で一方向的な研修とは異なり、ゼミ型研修では深い学びが達成できるだけでなく、受講者間の連帯も強まり、校種や地域をまたいだ情報交換の場ともなったとのことです。今年度の試行を踏まえ、来年度以降もよりよい形でのゼミ型研修を提供したいと考えております。なお、受講者間の連携という予期せぬ成果も得られたことから、ゼミ型研修を教員間のネットワーク構築に展開することも検討しております。

また、9月には『「新たな教師の学びの姿」実現に向けた教育委員会と大学の役割』というシンポジウムを開催し、文部科学省や教育委員会、東京都教職員研修センター等からご参加いただいた方々を交えて、今後の新しい教員研修のあり方を議論いたしました。シンポジウム後のアンケートによると、新たな教員研修の方向性について考える機会になった等の回答が多く、今後の教員研修の開拓に多少なりとも貢献できたかと思えます。

本報告書により今年度の現職教員研修推進本部の活動を総括するとともに、今後本学が提供する教員研修を利用する際の一助としていただければ幸いです。

1. 東京学芸大学現職教員研修推進本部について

東京学芸大学は、教育者を養成する単科大学であるとともに、すでに教員として現場で活躍されている先生方の研修を支援することを大学としての重要な使命と自覚しています。こうした国立教員養成系大学としての重要な役割を担う組織として、「国立大学法人東京学芸大学現職教員研修推進本部」が本学の役員会直属の機関として令和4(2022)年4月1日に設置されました。

本学におけるこのような現職教員研修を支援する取組は、文部科学省の機能強化経費「新たな社会的要請にこたえるハイレベルな現職教員研修プログラム開発」を活用し、平成28(2016)年度から開始されている現職教員に対する次世代育成教育の研修を引き継ぐものであります。

東京学芸大学現職教員研修推進本部の組織構成は、副学長1名(本部長)、学長が委嘱する教員(令和4年度は12名)、学務部長、先端教育推進課長から構成されており、東京学芸大学における現職教員研修を支援する上での中核となる組織となっています。また、推進本部には以下のプロジェクトを設置し、現職教員研修の充実・拡充を推進する取組を行っています。

	プロジェクト名
1	教育課程・教育課題研修プロジェクト
2	道徳科プロジェクト
3	小学校英語プロジェクト
4	IBプロジェクト
5	教員養成PDプロジェクト
6	理科プロジェクト
7	附属学校園におけるICTを活用した学習のためのコンテンツ制作プロジェクト
8	特別支援教育プロジェクト
9	動画配信・授業研究デジタル化プロジェクト

現職教員研修推進本部の業務としては、第一に、「現職教員研修に関する次期中期目標及び中期計画の提案並びに中期計画の推進」、第二に、「現職教員研修に関わる支援体制の検証及び充実・強化施策の立案に関する業務」、第三に、「現職教員に対する研修の実施にあたり

必要な調査研究及びその成果の普及」、第四に、「その他現職教員研修を推進するために必要な業務」が規定されています。

以上、東京学芸大学現職教員研修推進本部の組織と業務について概観させていただきましたが、令和4年6月に教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律が示され、教員免許更新制が発展的に解消されるとともに、「新たな教師の学びの姿の実現のための研修推進体制」を整え、充実した教員研修を行っていく必要があります。本学現職教員研修推進本部では、令和5(2023)年4月以降における現職教員のための研修が少しでも円滑に実施できるよう、全学体制の下、教員養成系大学としての使命を自覚し、全力で取り組んで参ります。

2. 本学が提供する現職教員研修の概要

東京学芸大学が現在実施している現職教員研修は、本学の教員が講師として研修を行い、受講者からの費用を徴収することなく無償により実施しています。本学が実施している研修は大きく分けて以下の通りに大別することができます。

① ゼミ型研修

少人数によるディスカッションを通して、特定の課題を追究するゼミ型の研修で、1回2時間程度のゼミを5～7回程度実施します。通常の講義型の研修では得ることのできない深い理解と満足感の高い研修を実現するための新たな研修スタイルです。

② 一般研修

これまで東京学芸大学が主体的に設定してきた従来型の研修であり、理科教育や道徳教育に関する多くの研修実績があります。

③ 教育委員会との連携による研修

東京都の各教育委員会や学校からの個別の依頼に応えた研修であり、初任者研修や中堅教諭等資質向上研修等の法定研修や、学校経営研修、組織マネジメント研修、特別支援教育、そして校内研修等多岐にわたる研修に対して講師を派遣しています。

④ 動画コンテンツの提供

東京学芸大学が喫緊の課題に関する内容を題材とした研修動画を独自に開発・作成し、オンデマンド型の研修に対応することができるよう、本学のホームページ（現職教員研修 Web サイト <https://www.u-gakugei.ac.jp/training/>）に掲載している研修です。今後の新たな教師の学びの姿を実現するための研修推進体制の構築に向け、今も新たな動画コンテンツを作成中です。

（1）本学が提供する「ゼミ型研修」

ここからは、東京学芸大学現職教員研修推進本部が実施している研修について、報告させていただきます。

初めに、令和4年度から新たな研修スタイルとして、本学が独自に実施している「ゼミ型研修」について紹介させていただきます。

すでにご案内の通り、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿と

して、児童生徒に対して個別最適な学びと協働的な学びの実現が求められています。一方、教員も教職生活全体を通じて「学び続ける教師像」が示され、教員免許更新制の発展的解消とともに、新たな教師の学びの姿が求められています。

こうした学校教育や教師を取り巻く状況を踏まえ、東京学芸大学では教師にとっての個別最適で協働的な研修として、本学の教員と双方向で継続的に学びを深めることができる「ゼミ型研修」を開発しました。なお、現時点では本学が提供するゼミ型研修は無料で実施しています。

令和4年度に開講した研修と令和5年度に開講する研修は以下の通りです。

●令和4年度開講したゼミ型研修

① 特別支援教育における校内支援体制の推進

- 講師 増田 謙太郎 准教授
- 内容 特別な支援が必要な子どもたちに、どのような組織的なアプローチが行えるかを検討し、ディスカッションを実施。(全4回)
- 会場 オンライン (zoom) 及び対面
- 対象 小・中学校教員 (非常勤教員、特別支援教室専門員、支援員を含む)、スクールカウンセラー等
- 参加者数 12名

② 特別支援教育に関わる「若手・中堅二層制の専門的指導法向上ゼミ研修」

- 講師 大伴 潔 教授、橋本 創一 教授
- 内容 若手教師と中堅教師、経験年数等が異なる2つの受講生がグループを構成し、特別支援教育における対象事例を持ち寄り、ゼミ形式で研修を実施。(全6回)
- 会場 オンライン (zoom)
- 対象 通級指導教室・特別支援学級・特別支援学校の教員
- 参加者数 16名

③ 外国語活動・外国語 授業改善セミナー

- 講師 粕谷 恭子 教授
- 内容 授業映像から気づいた課題についての意見交換やアイデア・教材の内

容について検討。(全5回)

■会場 オンライン (zoom)

■対象 小学校現職教員

■参加者数 11名

④ 令和の道徳教育・道徳科授業を考える

■講師 齋藤 嘉則 教授、永田 繁雄 特任教授、松尾 直博 教授

■内容 新しい時代に求められる道徳教育・道徳科授業について、講師による講話、参加者による発表、ディスカッションなどを組み合わせた2時間程度の研修を実施。(全5回)

■会場 オンライン (zoom)

■対象 現職教員

■参加者数 5名

⑤ 令和の道徳科授業の創意工夫と充実

■講師 永田 繁雄 特任教授

■内容 令和とともに、「特別の教科」である道徳科が、小中学校の全体で教科書使用により始められており、本研修では、新たにスタートしたその授業の在り方や、工夫・改善、一層の充実について考え、実践的指導力の向上を追究。(全5回)

■会場 オンライン (zoom)

■対象 現職教員 (小学校・中学校・特別支援学校)

■参加者数 12名

⑥ 令和の日本型学校教育の実現に向けて教員に求められる役割と責務

■講師 伊東 哲 特任教授

■内容 へき地や島しょ地区及び非常勤講師等の教員など、研修受講の機会が少ない現職教員を対象に、令和の日本型学校教育で求められる個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた基礎的な知識や指導方法について少人数によるディスカッションを通じた学びを展開。(全5回)

■会場 オンライン (zoom)

■対象 へき地や島しょ地区及び非常勤講師・産休代替教員、期限付き教員等

■参加者数 2名

⑦ 教育委員会における教育委員の役割と責務

■講師 伊東 哲 特任教授

■内容 PTA、保護者、住民代表として教育委員に就任された方々を対象に、学校教育や教育行政に関する基礎的知識の習得とともに、いじめ・不登校などの学校が抱える喫緊の課題や最新の教育情報について、少人数によるディスカッションを中心に展開。(全5回)

■会場 オンライン (zoom)

■対象 都道府県教育委員会や政令指定都市教育委員会及び市区町村教育委員会の教育委員

■参加者数 15名(第1期)、3名(第2期)

⑧ 新たな教師の学びの姿を実現するための指導・助言の在り方について(校長対象)

■講師 伊東 哲 特任教授

■内容 ゼミ形式による講義や受講者相互による意見交換を通じた学びの中で、教員研修に関するこれまでの経緯と令和5年4月以降における「新たな教師の学びの姿の実現のための研修推進体制」に関する方向性、ガイドラインの解釈、実際の進め方などについて明らかにしていくとともに、受講者である各校長の思いや考えを共有。(全5回)

■会場 オンライン (zoom)

■対象 公立学校の現職校長

■参加者数 4名

⑨ 「専門家としての教師」について考える

■講師 下田 誠 准教授

■内容 課題文献を受講者と大学教員がともに読み進め、各自の日常の仕事を振り返ったり、新たな気づきを得ながら、「専門家としての教師」について研究的にアプローチ。(全5回)

■会場 オンライン (zoom)

■対象 現職教員

■参加者数 6名

●令和5年度開講予定のゼミ型研修

① 新たな教師の学びの姿を実現するための指導・助言の在り方について（校長対象）

◇講師 伊東 哲 特任教授

◇内容 令和5年4月より実施される、「新たな教師の学びの姿の実現のための研修推進体制」について、各学校の校長先生方を対象として、今後、どのような準備をし、進めていくのかということや、教員に対する指導助言の在り方などについて、ゼミ形式による講義や受講者相互による意見交換を通して考えます。教員研修に関するこれまでの経緯と今後の方向性、ガイドラインの解釈などについて明らかにしていくとともに、受講者である各校長の思いや考えを共有し、今後の学校経営の充実に資することを目的としています。（全5回）

◇会場 オンライン（zoom）

◇対象 各公立学校の現職校長

◇募集人員 3～10人

② 特別支援教育に関わる「若手・中堅二層制の専門的支援法向上ゼミ研修」

◇講師 橋本 創一 教授

◇内容 若手教師と中堅教師を対象として、経験年数等が異なる2つの受講者グループを構成し、特別支援教育における対象事例からゼミ形式の研修を行います。若手・中堅の各々のグループ研修と若手・中堅の混合グループで特別支援教育における“チーム学校”づくりを目指した校内連携の学びと構築を考えていきます。（全7回）

◇会場 オンライン（zoom）主体 ※一部対面の可能性あり

◇対象 保育所・幼稚園・小学校・中学校・高等学校の通常学級・通級指導教室・特別支援学級、特別支援学校の教員（現任・経験者を含む）

◇募集人員 4～16名

③ 特別支援教育&合理的配慮の実践（ミニ研修）

◇講師 増田 謙太郎 准教授

◇内容 発達障害のある子どもへの理解と支援及び合理的配慮についての基礎的

な知識等について取り上げます。お一人で学ぶのも良いですが、校内の先生方と一緒に「ミニ研修会」として受講されることをお勧めします。(全4回)

◇会場 オンライン (zoom)

◇対象 小学校・中学校・高等学校教員、SC・支援員等

◇募集人員 3～30人

④ 上廣道德教育アカデミー「令和の道德教育・道德科授業を考える」

◇講師 齋藤 嘉則 教授、永田 繁雄 教授、松尾 直博 教授 ほか

◇内容 新しい時代に求められる道德教育・道德科授業について、ゼミ形式で学び合う研修です。具体的には、当面する道德教育の課題、道德科の新たな創造、各教科などとの関連、道德性の発達、次世代に向けた在り方などについて深めていきます。「新しい道德の姿が見えにくい」「少し幅広い知識を得たい」「コロナ禍の先をどうする？」…このような問題意識をもつ先生方、ぜひ本研修をご活用ください。(全5回)

◇会場 オンライン (zoom)

◇対象 現職教員 (小学校・中学校・特別支援学校)

◇募集人員 5～20人

⑤ 教育委員会における教育委員の役割と責務

◇講師 伊東 哲 特任教授

◇内容 本講座では、PTA や保護者あるいは住民の代表として教育委員に就任された方々を対象として、学校教育や教育行政に関する基礎的・基本的な制度や法令等についての理解を深めるとともにいじめ問題や不登校など学校教育が直面している喫緊の課題や最新の教育情報について、少人数によるディスカッションを中心とした学びを展開し、教育委員会における教育委員としての資質・能力の向上に資することを目的とします。(全5回)

◇会場 オンライン (zoom)

◇対象 都道府県及び政令指定都市並びに市区町村教育委員会の教育委員

◇募集人員 3～10人

⑥ 外国語活動・外国語 授業改善セミナー

◇講師 粕谷 恭子 教授

◇内容 外国語活動・外国語の授業を行う中で「これでいいのかな？大丈夫かな？」と感じておられる先生方を対象とする講座です。授業づくりの基本について学び、授業の映像を見ながら、授業改善にむけた意見交換を行います。授業のアイデア、教材の紹介等もいたします。希望者があれば、ご自分のお授業をお持ちいただくことも歓迎です。(全5回)

◇会場 オンライン (zoom) 及びハイフレックス

◇対象 小学校で英語教育に関わっている教員

◇募集人員 3～5人

⑦ 「専門家としての教師」について考える

◇講師 下田 誠 准教授

◇内容 本研修は、「専門家としての教師」を対象化した1990年代以降の研究を取り上げ、各自の日常の仕事を振り返る機会を計画しました。「専門家としての教師」に研究的にアプローチするうえで、多面的な視点からの探求成果を紹介しているリーディングスを課題文献として受講者と教師教育を専門とする大学教員がともに読み進めます。(全5回)

※ テキストとして油布佐和子編著『リーディングス日本の教育と社会 15 教師という仕事』(日本図書センター)を使用する予定です。

※ 3名の教師教育を専門とする大学教員がコーディネーター教員の他に参加する予定です。

◇会場 オンライン (zoom)

◇対象 現職教員

◇募集人員 3～8名

⑧ 子どもの学びを支援するファシリテーション (夏季集中研修)

◇講師 増田 謙太郎 准教授

◇内容 ファシリテーションの考え方や技法を用いた授業づくりや学級経営について取り上げます。夏季休業期間中に校内での研修に活用できるような時間設定にいたしました。研修中、講師から様々な「問い」を投げかけます。その「問い」を校内の先生方で一緒に考えていただくことで学びが深まることを期待します。お一人で学ぶのも可能ですが、できたら校内の先生方と一緒に受講されることをお勧めします。(全2回)

- ◇会場 オンライン (zoom)
- ◇対象 小学校・中学校・高等学校教員
- ◇募集人員 3～30人

⑨ 指導主事の職務と役割について考える～他の自治体の若手指導主事とのディスカッションを通して～

- ◇講師 伊東 哲 特任教授
- ◇内容 本講座では、新任指導主事や若手指導主事を対象として、他の自治体の指導主事との意見や情報を交換し合い、互いに励まし合いながら、指導主事に求められる資質・能力等について確認していきます。とりわけ、学校訪問等における指導・助言の在り方や、緊急事態時における学校支援の在り方、そして教員研修等を通じた人材育成の在り方などについて、互いの意見を交換しながら論点を深めていきます。(全5回)
- ◇会場 オンライン (zoom)
- ◇対象 新任指導主事及び若手指導主事
- ◇募集人員 3～10人

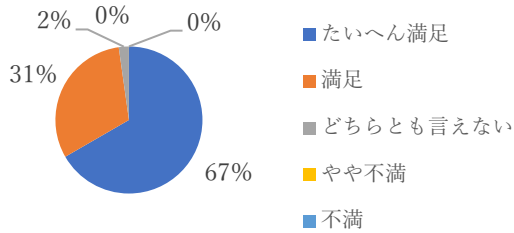
⑩ 上廣道徳教育アカデミー「令和の道徳科授業の創意工夫と充実」

- ◇講師 永田 繁雄 教授
- ◇内容 本研修は、令和とともに「特別の教科」である道徳科としてスタートした授業の新たな在り方と、その工夫改善と一層の充実について具体的に考え、実践的指導力の向上に資することを目的としています。道徳科誕生の意義、その全体的な理解と、指導の具体化、評価への取組、授業改善のポイント、さらには、これから求められる指導の方向をリアルな具体例を生かしながら、共に考えます。(全5回)
- ◇会場 オンライン (zoom)
- ◇対象 現職教員 (小学校・中学校・特別支援学校)
- ◇募集人員 5～20人

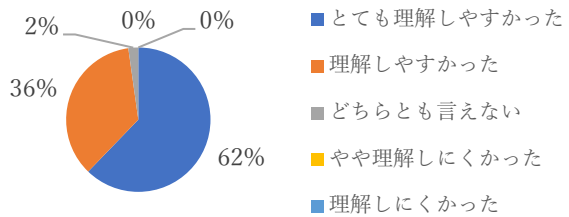
(参考) ゼミ型研修アンケート結果

講座数：6（令和5年1月完了分まで） 回答数：45 総受講者数：64 回答率：70%

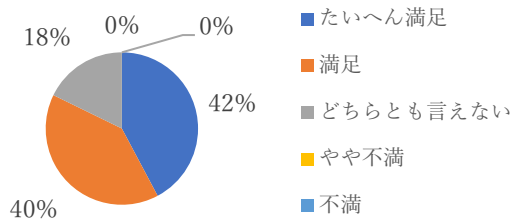
1) 研修に参加して、どのようにお感じですか？



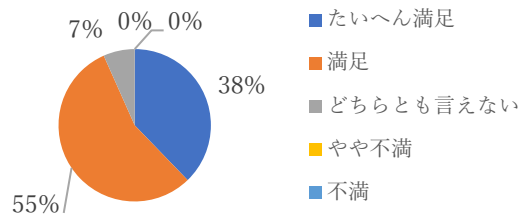
2) 研修の内容は理解しやすかったですか？



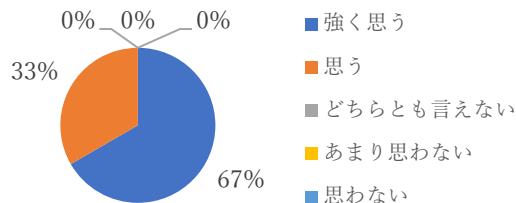
3) 研修日の設定は、あなたにとって都合のよい日でしたか？



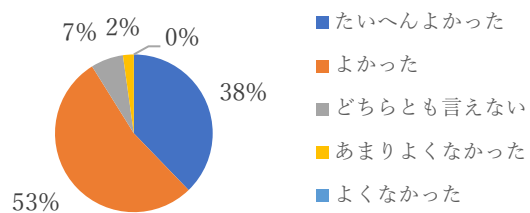
4) 研修の時間帯の設定は、あなたにとって都合のよい時間帯でしょうか？



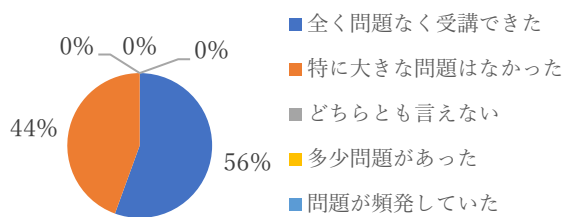
5) 講師は適切な時間管理のもと、効果的に研修を運営していましたか？



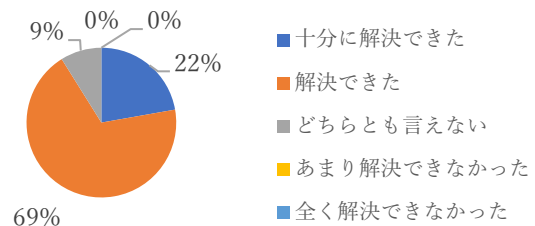
6) ゼミ型研修の参加者数は適切な人数だったと思いますか。



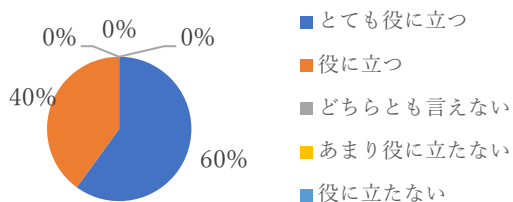
7) Zoom によるオンライン研修で、何か不都合だったことはありませんでしたか。



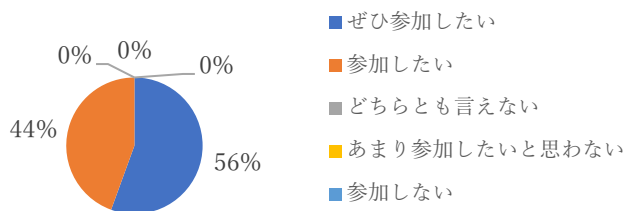
8) ゼミ型研修において、あなたは自分の悩みや課題を解決することができましたか。



9) 研修で学んだことは、あなたの仕事の役に立ちますか？



10) 今後、別のゼミ型研修にも参加したいと思いますか。



受講者の声

- ・様々な学校種や担当の先生方のお話を聞く機会ともなり、有意義であった。
- ・志の高い人が集まるのでとても刺激になった。
- ・すべての悩みが解決したわけではないが、悩みを交流し解決の糸口をつかむことができた。これからも学び続けていきたい。
- ・これからもこのような学びの機会があれば、有料でも受けたい。
- ・ゼミ形式で、月一度で5回行えたのもボリュームとしてはちょうど良かった。
- ・オンラインの研修が多かったため、自宅から参加できて時間的にもありがたかった。
- ・学校心理士・臨床発達心理士の資格取得への意欲が向上した。

講師の声

- ・一人ひとりに応じた演習が実施できた。こうした研修方法や形態が、学校現場の職場で、同僚（教師）同士で実施できるようにするための支援をしていく必要性を感じた。
- ・クローズドな場で具体的な事例を念頭に意見交換ができる。
- ・3ヶ月の長期のよさ。教員の問題意識を温めていくには、よいインターバルであると考えられた。
- ・研修後において、受講生たちのネットワークが構築された。

(2) 本学が実施する一般研修

東京学芸大学では、これまでも特定の教科や領域、また独自に設定したテーマに基づく教員研修を実施しています。本学におきましては、他のゼミ型研修や教育委員会との連携に基づく研修との個別化を図るために「一般研修」という名称で設置しています。

本学が令和4年度に実施した一般研修は以下の通りです。

研修名	講師
担任が進める外国語活動・外国語の授業	粕谷恭子
第2回 小学校英語プロジェクト主催 小学校英語研修	粕谷恭子
地球市民を育てる小学校外国語教育：授業体験オンラインワークショップ	阿部始子
地球市民を育てる小学校外国語教育：授業力アップオンラインワークショップ	阿部始子
地球市民を育成する小学校外国語教育－先生の相互文化的コミュニケーション能力を育てるオンラインワークショップ－	阿部始子
次の子ども達に話したくなる大地のおはなし－流れる水のはたらき－	高橋 修
先生のための Scratch 入門講座 －プログラミング教育の必修化を受けて－	佐藤尚毅
植物の水の通り道－現象の理解と指導のポイント－	中西 史
次の子ども達に話したくなる大地のおはなし－地層からよみとる過去の環境とその変遷－	高橋 修
気象予報士に挑戦（南岸低気圧編）	佐藤尚毅
理科とものづくり－理科におけるものづくりの役割－	鎌田正裕
メダカの飼育と授業での効果的な取扱い	中西 史
明日から使える教材作りと授業のヒント	大西和子
先生のための Scratch 入門講座 －プログラミング教育の必修化を受けて－	佐藤尚毅
情報通信技術（ICT）研究の実際と理科教育への応用 －情報通信研究機構バーチャル技術展示等見学と意見交換－	滝澤 修

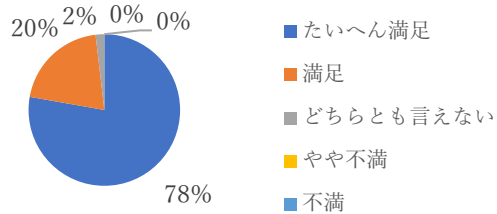
次の子ども達に話したくなる大地のおはなしー山はどうしてできるのか？ー	高橋 修
電池の化学ーボルタ電池とダニエル電池の理論と実験ー	小坂知己
顕微鏡のメンテナンスとスマホ顕微鏡アダプターの作成	真山茂樹
栄養生殖を学ぶための実験教材と教育実践	Ferjani Ali
子どもには内緒。実験して手回し発電の秘密をさぐる	松浦 執
太陽・月・星の動き	西浦慎悟
植物野外観察会ー標本をつくって植物をたくさん覚えようー	堂園いくみ
理科室の安全な管理の仕方と安全な実験方法①ー物質の管理法と実験操作ー	吉原伸敏
理科室の安全な管理の仕方と安全な実験方法②ー薬品の管理法と実験操作ー	中野幸夫
噴火と火山の成り立ち	藤本光一郎
放射線の基礎と霧箱	大西和子
ショウジョウバエを用いた遺伝実験	高森久樹
「物と重さ」と「温度と体積」	中野幸夫
フラーレンC60の化学反応と分離精製	前田 優
環境変化を理解する指導の工夫ーICTを使った河川環境づくりー	真山茂樹
物の溶け方	前田 優
数値シミュレーション入門ー振り子の運動を予測しようー	佐藤尚毅
先生のための Scratch 入門講座ープログラミング教育の必修化を受けてー	佐藤尚毅
天気図で学ぶ天気予報と気象学（台風編）	佐藤尚毅
宇宙教育の授業の取り入れ方ー宇宙が子どもたちの心に火をつける	JAXA 宇宙教育センター
水溶液の性質	吉原伸敏
ものの燃え方	小坂知己
身近なものの拡大観察ー「深く学ぶ」ためのヒントー	真山茂樹
中学校理科教員のための科学的防災学習プログラムの設計	平田昭雄
昆虫の体のつくり	高森久樹
振り子の運動	植松晴子
生物電気の基礎実験	吉野正巳

魅力的な導入部分をどう作るか～主体的な学習へとつなげるために ～基礎理論編	小林晋平
魅力的な導入部分をどう作るか～主体的な学習へとつなげるために ～応用編	小林晋平
Sony の MESH で IoT プログラミングして遊ぶ	松浦 執
光の進み方	植松晴子
地層のつくりとでき方	西田尚央
生徒の相互作用を重視した物理授業の展開	新田英雄
顕微鏡のメンテナンスとスマホ顕微鏡アダプターの作成	真山茂樹
接触グロー放電による前生物学的なアミノ酸の合成	原田和雄
野外における動植物の観察～視点を変えて	狩野賢司
感染症の基礎	原田和雄
エネルギーの様々な形－手回し発電機を使って－	植松晴子
天気図で学ぶ天気予報と気象学（低気圧編）	佐藤尚毅
ウィンタースポーツのための天気図入門講座	佐藤尚毅
先生のための Scratch 入門講座 –プログラミング教育の必修化を受けて–	佐藤尚毅
放射線の基礎と霧箱	大西和子
第 14 回理科教育シンポジウム「新学習指導要領における探究活動の 展開－その実践例と評価法－」	-
道徳授業パワーアップセミナー	-
東京学芸大学先端教育人材育成推進機構「道徳教育の未来」セミナー	-
公開セミナー 教科内容学的研究の現在	-
附属国際中等教育学校新人教職員対象 IB 研修会	-
附属国際中等教育学校全教職員対象 IB 研修会	-
附属国際中等教育学校公開研究会	-
八王子市初任者等研修	-
八王子市中堅教諭等資質向上研修	-
附属高等学校公開研究会	-

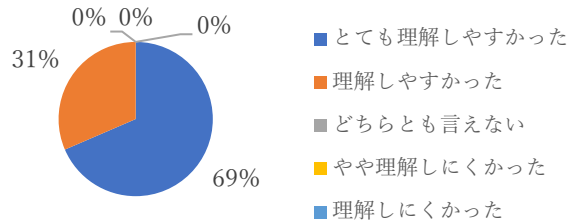
(参考) 一般研修アンケート結果

講座数：4 (令和5年1月完了分まで) 回答数：54 総受講者数：149 回答率：36%

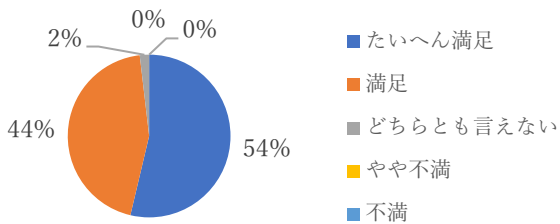
1) 研修に参加して、どのようにお感じですか？



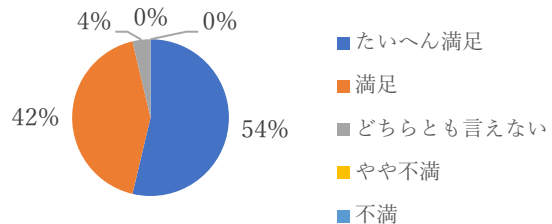
2) 研修の内容は理解しやすかったですか？



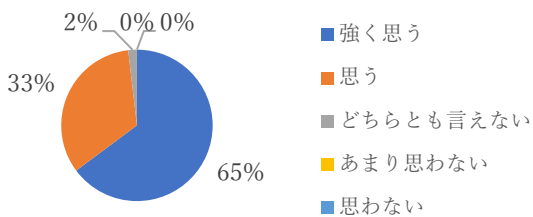
3) 研修日の設定は、あなたにとって都合のよい日でしたか？



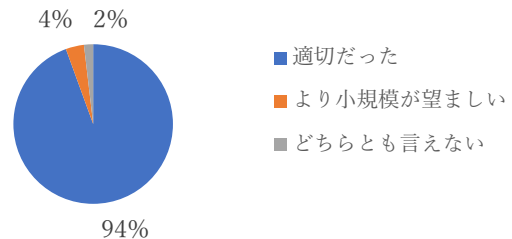
4) 研修の時間帯の設定は、あなたにとって都合のよい時間帯でしょうか？



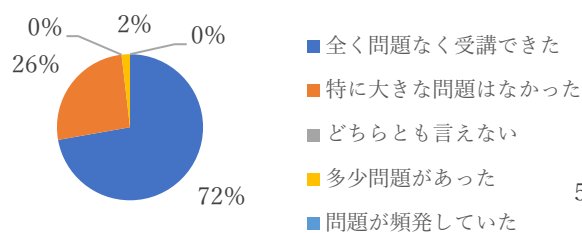
5) 講師は適切な時間管理のもと、効果的に研修を運営していましたか？



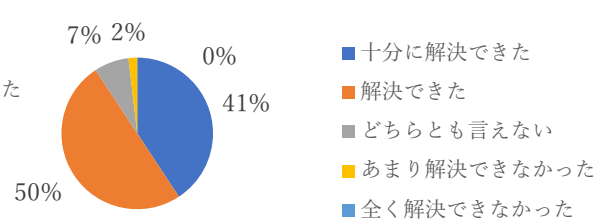
6) 研修の参加者数は適切な人数だと思えますか？



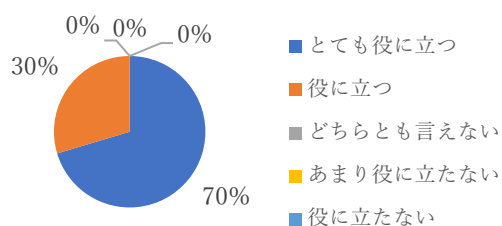
7) Zoom によるオンライン研修で、何か不都合だったことはありませんでしたか？



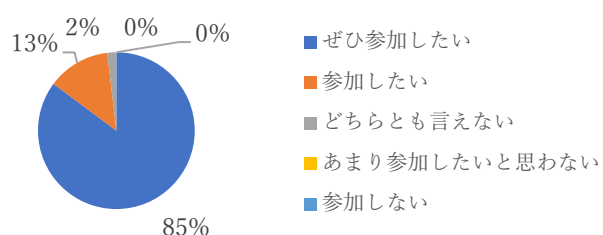
8) この研修において、あなたは自分の悩みや課題を解決することができましたか？



9) 研修で学んだことは、あなたの仕事の役に立ちますか？



10) 今後、別のゼミ型研修にも参加したいと思いますか？



受講者の声

- ・学んだことを、さっそく月曜日の授業で生かした。
- ・基本に立ち戻り学び直すことができた。
- ・毎年受講している。ぜひ、来年度も受講させていただきたい。
- ・大学が主催なので、もっとアカデミックで専門的なものでもいいと思う。

講師の声

- ・対面での実施が困難と判断し、今年度もオンライン開催とした。次年度はハイフレックスで行いたい。
- ・活発に質疑応答も行われ、様々な視点で考えるヒントを提供することができた。
- ・総括的な教員の異文化理解能力の向上を目指すためには、回数（時間）が足りないため、春休みにも講座を開設する予定である。

(3) 各教育委員会等からの依頼に基づく研修

東京学芸大学では、国立教員養成系大学の重要な使命の一つとして、各地区の教育委員会との連携を図り、教員の養成・採用・育成に取り組んでいます。特に、現職教員研修に対する教育委員会との連携については、本学が有する人材を全学体制で活用し、市区町村の教育委員会が実施する研修に講師として派遣する取組を行っています。また、各学校が単独で実施する校内研修会についても、可能な限り派遣できるよう努力しているところです。

こうした教育委員会等からの依頼・要請に基づく講師派遣については、本学の教員が対応できる内容等により、いくつかのカテゴリーに分類することができます。第一は、初任者研修や中堅教諭等資質向上研修のような法定研修への派遣です。第二は、各教育委員会で実施する各種主任会などの職務研修への派遣です。そして、第三は、各教科等に関わる研修や指導方法などに関する研修への派遣です。いずれの場合についても、各教育委員会から事後の受講者アンケートなどに基づくフィードバックをいただき、研修内容や方法等に対する改善を行っています。

本講師派遣に関するこれまでの実績は以下の通りです。

年度	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和 2 年度 (2020)	令和 3 年度 (2021)	令和 4 年度 (2022)
実施件数	43	43	38	45	69
派遣先教育委員会数	11	14	9	10	17
総受講者数	不明	3,012	986	2,508	3,229

(4) 本学が作成した動画コンテンツ

教員の個別最適な学びを支援するため、推進本部では研修動画を作成し、現職教員研修 Web サイト (<https://www.u-gakugei.ac.jp/training/>) で公開しています。令和 4 年 4 月時点で 64 本の動画コンテンツをサイトに収録し運用を開始しました。なお、これらの動画は、独立行政法人教職員支援機構 (NITS) の「新たな教師の学びのための検索システム」からもアクセスできるようになっています。

さらに令和4年度は、以下の動画を開発しました。自分に必要なコンテンツを自ら選択し、「いつでも・どこでも」学ぶことができるオンデマンド配信動画への関心は高く、教育委員会や教員個人のニーズを踏まえながら、今後もコンテンツを計画的に拡充していく予定です。

① 係活動における日常的な ICT を活用した学習環境デザインの方法

■作成：附属小金井小学校

■内容：児童が行う端末の基本操作の紹介、係活動において児童が日常のかつ主体的に ICT を活用した学習例。

■構成：3分×3本

② 効果的なオンライン学習

■作成：附属大泉小学校

■内容：児童のさまざまな状況に合わせた学習形態と、それを支えるプラットフォーム・コンテンツの紹介。校務の軽減化、児童も教師も快適な使い方の事例。

■構成：18分×1本

③ ICT 機器を活用した生徒の学習効率を高める授業実践（社会科編）

■作成：附属竹早中学校

■内容：テーマは「授業・評価の場面で ICT を活用した授業実践」。生徒の学習成果を全体で共有することが個人の学習の工夫に反映すること、様々なコンテンツを一つのワークシートに集約できる ICT 機器の活用、生徒の思考の軌跡をみとる方法等を提示。

■構成：17分×1本

④ ICT 機器を活用した生徒の学習効率を高める授業実践（理科編）

■作成：附属竹早中学校

■内容：テーマは「ノートの写真を活用してもっと便利に」と「より効果的なりモータハイブリット授業」。ICT 活用については簡単にできるものから応用編まで具体的に提示。対面授業を行うことの意義について改めて問い直すコンテンツ。

■構成：20分×1本

⑤ 知的障害特別支援教育における ICT 活用

■作成：附属特別支援学校

■内容：個々の特性に応じた ICT 活用による支援の在り方、活用場面の分類等。近年注目されている VR やメタバースによる学びについても紹介。

■構成：約 10 分×1 本

⑥ 幼稚園における ICT を使った教材（動画）の活用

■作成：附属幼稚園小金井園舎

■内容：園内活動と園外活動をつなぐもの、園生活と家庭をつなぐもの。

■構成：6 分×1 本

⑦ 高校教育における 1 to 1（1 人 1 台 PC）の導入と活用

■作成：附属高等学校、動画配信・授業研究デジタル化プロジェクト

■内容：令和 2 年度より開始した 1 to 1（1 人 1 台 PC）による教育実践について、3 年目の成果とそこで見えてきた課題を紹介。

■構成：約 12 分×3 本

⑧ “研修履歴を活用した対話に基づく受講履歴”の進め方について

■講師：伊東哲特任教授

■内容：令和 5 年度から始まる新たな研修体制に対応するため、法的根拠や準備すべきことを学校管理職（校長）向けに解説する。

■構成：約 20 分×3 本

⑨ 学校教育におけるファシリテーション

■講師：増田謙太郎准教授

■内容：子どもたちが「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」を実現できるようにするために、「教師のファシリテーション」とは何かについて、基礎的な内容を解説する。

■構成：約 8 分×4 本

⑩ 教員の指導力を高める指導・助言のあり方

■講師：浅野あい子准教授

■内容：認定指導教員向けに、指導・助言のポイントを解説する。（八王子市教育委員会認定指導教員研修）

■構成：約 60 分× 1 本

⑪ 外国語活動・外国語の指導を 4 技能の観点で見直す

■講師：粕谷恭子教授

■内容：聞くこと、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」について、子どもたちが無理なく身につけられるような指導を、実践例を交えて紹介する。

■構成：約 15 分× 5 本

⑫ 道徳教育を考える

■講師：永田繁雄特任教授

■内容：学習指導要領の枠組みの理解をもとに、道徳教育と道徳科の指導について学び、学習指導要領解説が示す内容を手掛かりに、道徳科の授業の考え方・つくり方を学ぶ。

■構成：約 20 分× 2 本

3. 現職教員研修に関わるシンポジウム

東京学芸大学では、平成 29（2017）年度より毎年 9 月に、都道府県、政令市及び東京都を中心とした市区町村教育委員会の指導主事等を対象として、その時々における教員研修に関わる喫緊の課題をテーマとしたシンポジウムを開催しています。シンポジウムでは、まず、東京学芸大学と連携した現職教員研修を実施している教育委員会の指導主事から、連携を通して実施した研修の成果と課題について報告をいただき、本学がどのような研修にどのような講師を派遣しているかなどについて紹介をしていただきます。その後、本学現職教員研修推進本部のプロジェクトから代表的な取組事例や、先端教育人材育成推進機構の取組の紹介をさせていただき、その後のパネルディスカッションにつなげています。

シンポジウムでは、「区市町村教育委員会における教員研修の現状と課題」や「次世代型教育のための教員研修の展望」など、教員研修全般に関わるテーマを中心に、これまでも一貫して大学と教育委員会との連携の在り方を模索しています。また、シンポジウムの後半では、研修の内容をいくつかのテーマで分類し、テーマごとの分科会を行い、より具体的な内容について、教育委員会と大学の連携に関する議論を行っています。シンポジウムの形態については、当初は本学を会場とした対面による集会形式で実施していましたが、現在は新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、オンラインによる開催に移行しています。

このような形で実施してきたシンポジウムですが、令和 4 年度においては、5 月の「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律」に示された「教員免許更新制の発展的解消」と、令和 5 年度からの「『研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励』と呼ばれる新たな教員研修システムの実施」を受け、令和 5 年度からの教員研修の在り方について、令和 4 年 9 月という全国的に見てもきわめて早い段階で、「新たな教師の学びの姿」実現に向けた教育委員会と大学の役割について、シンポジウムを開催することができました。

令和 4 年度のシンポジウムに関する事後アンケート調査では、シンポジウムの開催趣旨や内容に関する調査項目において、おおむね良好である旨の結果を得ることができ、全国的にいち早く「新たな教師の学びの姿」実現のための教育委員会と大学の連携の在り方を模索することができました。現在、シンポジウムの成果を踏まえ、令和 5 年 4 月以降の教員研修に関して、新たな研修推進体制が期待する大学としての役割を果たすことができるよう、東京学芸大学全体としての体制づくりを進めているところです。

4. その他の活動

これまで述べて来たもののほかに、推進本部では以下の事業を行っています。

① IB (International Baccalaureate : 国際バカロレア) 研修教員の受け入れ

本学附属国際中等教育学校は、日本の国公立中学校・高等学校・中等教育学校で初めて IB World School に認定された学校であり、国内の IB 教育推進において先駆的な役割を担っています。その取組を実地で学ぶため、IB 教育を推進しようとする教育委員会が派遣する研修教員を長期 (1 年間) で受け入れており、日常的な教育活動が研修となっています。令和 4 年度は高知県教育委員会から 2 名を受け入れました。

また、国内外の自治体、教育機関による教育視察を積極的に受け入れ、授業見学、情報交換や懇談を通して、IB 理念を軸にした教育について情報交換を行っています。令和 4 年度の視察等 44 件中、IB 関連は 14 件でした。(令和 4 年 11 月 25 日現在)

② 21CoDOMoS を用いた研修支援

動画配信システム「21CoDOMoS」(トゥエンティワン・コドモス) を使って、オンライン研修の支援を行っています。21CoDOMoS は異なる角度で撮影した 3 つの授業動画を同時に再生する機能を持ち、オンラインでありながら詳細な授業観察が可能になっていることから、学内のコンテンツを配信するのみにとどまらず、学外からもオンライン研修システムとしての利用希望があります。令和 4 年度は附属高等学校の公開研究会をオンラインで実施したほか、八王子市教育委員会と連携し、初任者等研修及び中堅教諭等資質向上研修を実施しました。

③ 現職教員研修 Web サイトの運営

令和 4 年度に立ち上げた現職教員研修 Web サイトでは、オンデマンド配信動画の提供及び研修講座(ゼミ型研修・一般研修)の申込受付等を行っています。うちオンデマンド配信動画は令和 5 年 2 月時点で 71 件が掲載されており、全体で 6,017 回利用されました。

あとがき

東京学芸大学現職教員研修推進本部 副本部長 伊東哲

「東京学芸大学における現職教員研修支援の概要」をご覧くださいまして誠にありがとうございました。この冊子は、これまで東京学芸大学が行ってきた現職教員の資質・能力の向上を図るための取組について、本学が現時点で提供できる研修等の内容を簡単に整理したものであります。

この冊子を作成した目的は、第一に、東京学芸大学における現職教員研修支援の状況につきまして、都道府県及び政令指定都市教育委員会や市区町村教育委員会の皆様に御理解をいただき、本学が提供させていただく取組を活用していただければと考えているからでございます。第二は、本学の取組につきまして、各教育委員会所管の学校への情報提供をお願いできればと考えているからでございます。

すでにご案内のように、令和5年4月1日から施行されます教育公務員特例法第22条の6第3項では、「指導助言者は、独立行政法人教職員支援機構（NITS）や大学等に情報の提供等の協力を求めることができることとする。」と規定されています。本学では、改正教育公務員特例法の趣旨を踏まえ、これまで全学体制により令和5年4月以降における各教育委員会及び各学校並びに各教員からの研修受講等に関わる情報提供の依頼にできる限り応えることができるよう、様々な準備を進めてきたところでございます。令和5年3月の段階におきまして本学が提供できる内容につきましては、まだまだ不十分な点があり、今後、時間をかけて動画コンテンツや研修のメニュー等を蓄積していかなければならないことは自覚しておりますが、まずは現時点で国立教員養成系大学としての使命を果たすことができるよう、最善の取組を行っていく所存でございます。

本冊子をご覧の皆様におかれましては、「新たな教師の学びの姿を実現するための研修推進体制」の構築や、教員研修に関する受講奨励に関わる指導助言におきまして、本学の取組を御活用いただければ幸いです。なお、本学における現職教員研修の詳細につきましては、東京学芸大学のホームページ上の「東京学芸大学 現職教員研修」（<https://www.u-gakugei.ac.jp/training/>）からもご確認いただけます。

今後も、東京学芸大学における現職教員研修支援に向けた取組は、各教育委員会や各学校の校長先生や教職員の皆様の御意見や御要望を踏まえ、効果の検証と改善・充実を図ってまいります。皆様方の更なる御指導等を頂ければ幸いです。何卒よろしくお願いいたします。

令和4年度 東京学芸大学現職教員研修推進本部報告書

東京学芸大学における現職教員研修支援の概要
新たな教師の学びの姿を実現するための取組

令和5年3月31日 発行

編集 東京学芸大学現職教員研修推進本部
<https://www.u-gakugei.ac.jp/training/>

所在地 東京学芸大学
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1